

聖句

「あなたの僕の魂に喜びをお与えください。わたしの魂が慕うのは、主よ、あなたなのです。」

詩編 86 章 4 節

矯風会は今年 130 周年、HELP30 周年を迎えます。初代会頭矢嶋楯子は女子学院院長を 80 歳で辞任すると、矯風会の活動に力を傾け、廃娼運動に特に力をいれました。身売りされた女性たちの悲惨な状況を見過せず、土地を購入して廃業した女性たちを受け入れました。また地方の会員も女性たちの救出に奔走し、支部が婦人保護施設を作り、今も矯風会関連施設として運営しています。多額の経費が必要で矢嶋会頭は募金に明け暮れる日々でした。HELP 創設に当たっても経済的な不安がありました。必要なものは神様が与えてくださるという信仰の上に矯風会は福祉活動を続けてきました。いつもお支え下さる皆様は神様からの賜物と心から感謝しています。これからも宜しくお願いいたします。

川野 安子 (理事長)

待つことの先にあるもの ～待降節の中を歩む女性たちとシェルター～

今年もクリスマスを待ち望む待降節がやってきました。女性の家 HELP では、1 年の間に会った多くの女性や子どもたちの顔を、あの人この人と思い起こす季節です。

女性の家 HELP では、HELP に滞在した女性の退所時に「行ってらっしゃい」と言って送り出すことがあります。それは、通常の滞在期間(数日～2週間)より長く滞在した場合にかけられる言葉です。シェルターを利用する原因となった複雑な事情を、こんがらがった糸をほぐすように少しずつ整理していくためには、当初予定していたよりたくさんの時間がかかり、待つことを余儀なくされる場合があります。嬉しいこと、楽しいことを待つのは、指折り数えながらで好ましいものですが、誰か他の人が自分の手続きをするのを待つのは、思うように進まないイライラや焦りを伴う「待たされ感」の強い不愉快なものになりやすいのです。HELP を利用する女性は、時にそのように「待つ」ことを余儀なくされます。

では、その間、どのように待つのでしょうか。たくさんの時間をつぶせるような毒にも薬にもならないような活動(塗り絵や手芸など)にハマってみたり、心身の具合が悪ければ病院に通い「(ご飯がおいしいから)帰って来て食べる」と言ってみたり、夜その日あったことをお話ししたりしながらです。スタッフにできることは、話を聞いたり、一緒にご飯を食べたり、女性たちが気持ちよく過ごせる環境を整えることです。手続きの進み具合を理解しても、時が満ちるまで、それを早めることはできません。女性たちのイライラを受け止めたりしながら、ただ一緒に待つのです。忍耐しながら待つのです。

そして、必要なことが整理されて迎える「退所」は、女性にとっては、新しい次の生活の「はじまり」であり、女性の家 HELP のスタッフにとっては、短期間ながらも集中的なお付き合いの「終わり」です。ひとりの女性の「退所」は、ともに忍耐して待った末たどり着いた共通の「成果」でもあります。

ある時、「(HELP の) サクセスストーリーはありますか?」と聞かれ、答えに窮しました。お話しして喜んでいただけるようなサクセスストーリーの中身は、どのようなものでしょうか? 女性の家 HELP には、退所後、数か月して、望んでいた離婚成立の実現や、無事の出産報告に訪れてくれる女性がいます。退所後数年を経て、子どもの成長や就職の報告を電話で教えてくれる女性もいます。報告される内容は、女性たちの HELP 滞在中からスタッフが待ち望んでいたことばかりです。信じて待っていることは、後から来ます。これこそが待っていたことの実り(サクセス)であり、HELP をご支援下さる皆さまと分かち合いたい大きな喜びです。

クリスマスの豊かな恵みが皆さまの上にありますようにお祈りいたします。

坂間 治子 (女性の家 HELP 主任支援員)

「当事者の力を信じ見守る」HELP 日勤スタッフの役割

女性が緊急シェルターにたどり着くのは、人生において、逆風にさらされているとき、危機に直面している時です。今日ここに来ることは、予定にはなかったかもしれません。慣れない場所で、少しでも安心して過ごしていただけるように整えるのがスタッフの役割です。

掃除・ベッドメイキング、洗濯・食事の準備（調理以外）、入所者との面談、情報提供、依頼元への連絡調整、買い物や病院への同行、外出、帰宅時の確認、電話相談、行事の企画、日誌・記録の記入、宿泊費等の徴収・必要部品の購入、その他もろもろの雑用などを行っています。入所されている方が、休息を取り、本来持っている力を取り戻し、納得のいく方向を見出せるようサポートしていくことを心がけています。大切にしていることは、当事者の力を信じ、見守り、自己決定を尊重すること。できる限り、慣れない環境の中でも、その方らしく過ごしていただくことです。ヘルプでは、外出時、「どこに行く？何時に帰る？」と原則的に聞きません。「門限までに帰って下さいね」といいます。言いたくないことを無理に聞かない。こうしなさいと「指導」しない。ゆっくり歩くのも、早く歩くのも決めるのは、支援者ではありません。黙って、温かく、余計なことを言わないで見守る。求められれば応える。これがヘルプスタッフの基本だと考えています。主役を支える黒子のような存在でありたいものです。

夜もゆっくり眠ると、積極的に一宿直の必要性一

私はヘルプの宿直者になって、8年目になります。

けれども、家庭内暴力の被害者の方々が、単に肉体的被害のみならず、精神的にも重い被害をこうむっていることを知れば知るほど、自分の無力さを感じます。

日勤のケースカーの方々と5時に引き継ぎして、6時半には調理の方が作って下さったおいしい夕食を皆で頂きます。片付けの後は、TVを観たりおしゃべりをします。

過去の辛い思い出を吐き出される方もいますが、なるべくコメントせず聴くことに徹します。ただ、最近は各部屋にTVがあるため、食堂に残る方は少ないです。

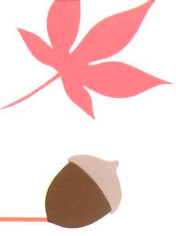
10時には全員の部屋に戻ります。何事もなく夜眠れば幸いです。

急病人が出ると大変。スタッフや病院に連絡タクシーか救急車で運んでもらう。妊婦さんがいる時はいつ破水するか不安です。

昨年の朝、玄関のガラスを不審者に割られました。夜間一人で対応するのかなと思うと、責任は重いです。その後玄関は強化ガラスになり、コンビニのような防犯カメラが入りました。

8時に朝食を食べ、9時半にスタッフが来るとホットします。

それでも、3食きちんと食べ、夜もぐっすり眠ると、顔つきが穏やかになり、積極的になる入所者さんの姿を見ると、この仕事の必要性を感じます。



「多彩な食事で話に花咲く」HELPのご飯

HELP は 30 周年を迎えます。

私が HELP の食事作りに関わらせて頂いてほぼ 6 年です。あっという間の年月でした。この間休む事なく、食事が提供されました。HELP の車輪の大きな一部かと思えます。

今スタッフはそれぞれ人生を歩み、子育てが終わった 5 人で担当させて頂いております。個性も多彩、料理の味付けもいろいろ、日本料理以外の料理も沢山出ています。

副食も汁物いれて 5 皿の提供です。その時に応じて多くなる時もありますが、少なくなることはありません。皆様と一緒にテーブルを囲んでの食事です。時に孤食を望まれる方は希望に添っています。

たくさん美味しい物を頂くととにかく幸せ感にひたり、皆様満足のようですし、お食事の時「話に花が咲いて」特に夕食はたっぷりの時間当直者と共に語り合うひとときでもあります。

人の話を聞くということはとても大切な部分であり、そこから気づきも与えられ、明日への希望と力になっていることでしょう。

私もこの仕事に携わらせていただき、沢山の出会いが与えられて、皆さんの人生に涙を流したり、驚愕したり、拍手を送ったり等などで、本当に良かったと思えます。去年は外国籍の方も多く、多彩な食事を提供しましたし、また日本古来の食事の提供し、日本食になじんで頂く一コマでもありました。

時にばったりと外で会うときには笑顔であいさつをしてくださり、嬉しく思います。ああ、神様が会わせて下さったのだと！これからもその方の健康を祈る日々でもあります。



セタお祝い時のお菓子



フラワーアレンジメント



なかなか口に出して言えないことを
伝えるためのプラカード



自由作品

お誕生会の「奇跡」

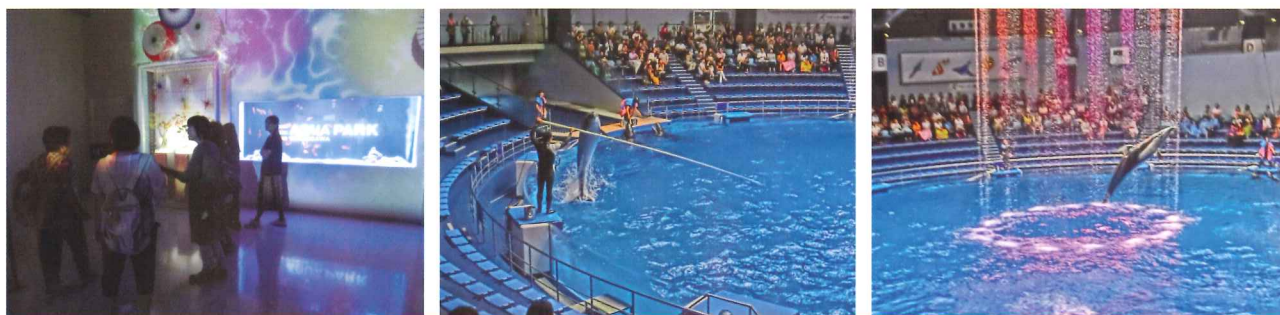
「お誕生会」、その響きで何を連想なさるでしょうか？子どもの時、お祝いしてもらったこと、大切なお友達との特別なお祝いの時、お祝いする側に立って、家族のために開いたお誕生会…。HELPには、毎年100人以上の女性や子どもたちが訪れます。大体は1か月未満のとても短い滞在期間の間に、お誕生日を迎える人はそんなに多くはありません。でも、たまたまお誕生日の時にHELPにいらした方には、サプライズパーティをしています。スタッフや皆が一斉に歌うバースデーソングに思わず涙する方、ケーキをパクつきながら、何度も「かんぱーい！」をせがむ幼児さん、そして最後は笑顔の写真撮影。

誰もが等しく持っている「生まれた日」。ささやかではありますが、それを一緒にお祝いする喜びを分かち合う中で、新しい何かが生まれていると信じています。HELPでのお誕生会の「奇跡」、末永く続けられるよう願っています。

イルカショーと品川プリンスでの食事

品川駅からまっすぐ歩いて5分ほどのところにアクアパークがありました。元気な6頭のイルカと、なぜか1頭のクジラの機敏な泳ぎ、しなやかなジャンプに魅了され、水しぶきをかけられ観客は童心に返り楽しんでいる様子でした。6人のHELP一行も、そんなイルカのジャンプや水族館を十分楽しんだ後、やっとランチへ。人気の品川プリンスホテルのビュッフェは、午後1:30からの予約となり、十分に空いたお腹を抱えての食事になりました。高い天井からは青空が見え、広々とした空間での豪華な食事に、舌鼓を打つ一行でした。HELPの入居者の方は、ひとりひとりが課題を抱えて必死に取り組んでいます。そんな時に遠足？と思うかもしれませんが、そんな時だからこそ遠足！が実現しました。

秋の一日、イルカと、ごちそうで童心に返ったHELPの遠足でした。



この遠足も含め、庭野平和財団さまの助成事業で、以下のイベントを行うことができました。

- 1 七夕お祝い
- 2 サンシャイン水族館・プラネタリウムとランチ
- 3 ハローウィンティーパーティー（ミュージックセラピー付き）

お知らせ

HELP の活動をお支え下さい！

ボランティア

女性の家 HELP 活動説明会 毎月第一金曜日 午後 1 時 30 分から

ボランティアご希望の方は、お電話または矯風会HPでお申込みの上、この活動説明会にご参加ください。

《主なボランティア活動内容》 片付け、掃除のお手伝い、植物の手入れ他

物品寄付

いつもさまざまな献品を頂き、スタッフ一同心よりお礼申し上げます。

女性の家 HELP では、利用者の方への日用品等のお渡しにあたり、それが「日々の生活に不自由のない」状況に留まらず、慣れた環境や人間関係から離れ、多くのお気に入り物品を失ってシェルターへたどり着いた女性や子どもたちが、十分な休息をとり、新しい生活に向けた「希望」と「意欲」を育むきっかけとなるよう心掛けております。皆様からお寄せいただいたお志を活かして、年齢や国籍・文化等に基づくおひとりおひとりの多様な必要に応えていけるよう今後も努力してまいります。皆様のご協力をお願い申し上げます。

《食料品》

調味料（砂糖・塩・醤油・サラダ油）、ジャム、お菓子、嗜好品（コーヒー・紅茶・ココア・緑茶・ジュース・クリーム）＊賞味期限内の物

《日用品》

シャンプー、洗濯用粉洗剤、台所用洗剤、紙おむつ、ティッシュペーパー、化粧水（中瓶）、乳液（中瓶）、化粧品、歯磨き粉（中サイズ）。

《衣料品》

大人及び子ども用 衣類全般（パジャマ、スウェット上下、靴下、部屋履き、ジャケット、パーカー、下着（新品）等。

《その他》

ベビーカー（新品）、サングラス、靴、運動靴、ノート、タオルケット、バスタオル（新品）、フェイスタオル（新品）、手芸用品（刺繍糸など）。

送り先：〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-23-5

日本キリスト教婦人矯風会気付 HELP 事務局

月曜日から金曜日までの配達指定をお願い致します。



2016 年度「女性の家 HELP」クリスマス献金のお願い



クリスマスおめでとうございます。
皆さま、お健やかに過ごしていらっしゃいますか？
今年も、HELP を支えて下さる一人一人のお力により
助けを求める女性や子どもたちへの支援活動が続けられますことを
心から感謝申し上げます。



2016 年度はこれまでに日本の他、
フィリピン、タイ、韓国出身の女性 37 人と赤ちゃんや子どもたち 6 人が
緊急時の居場所として HELP を利用され、
また悩みを抱える女性たちへの電話相談を継続しました。

家庭を築くに至らない若年層の妊娠、出産後の再出発、
家族からの暴力等による困難な状況の中で、
HELP を必要とする女性たちにふさわしい支援が届けられるように
スタッフ一同、努力を重ねております。

安全で安心できる“家”であり続けるために
ますますの住環境の改善が求められています。

こうした必要に応え、
HELP に与えられた社会的使命を全うするため、
クリスマス献金による HELP へのご支援を
何卒よろしくお願い申し上げます。

2016 年 11 月

公益財団法人 公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会
女性の家 HELP 女性福祉委員長 鏡 清美
施設長（兼務） 松浦 薫

献金送付先

郵便振替口座：00110 - 5 - 188775 加入者名：女性の家 HELP